

## 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第1項 災害に対する不安を減らすようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりの防災意識を高め、自助・共助・公助の災害発生時の対応体制を確立し、災害に強く命を大切にする社会を実現します。

《指標》

災害に対して自ら対策を講じている人の割合

#### (1) 指標の説明

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。そこで、災害に対して自ら対策を講じている人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q15 あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。次の中から、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置      | 6 身内との連絡方法の確立  |
| 2 住宅用火災警報器の設置 | 7 避難経路や避難場所の確認 |
| 3 家具などの転倒防止   | 8 防災訓練などへの参加   |
| 4 水や食糧の備蓄     | 9 その他（ ）       |
| 5 非常持ち出し用品の確保 | 10 特に準備はしていない  |

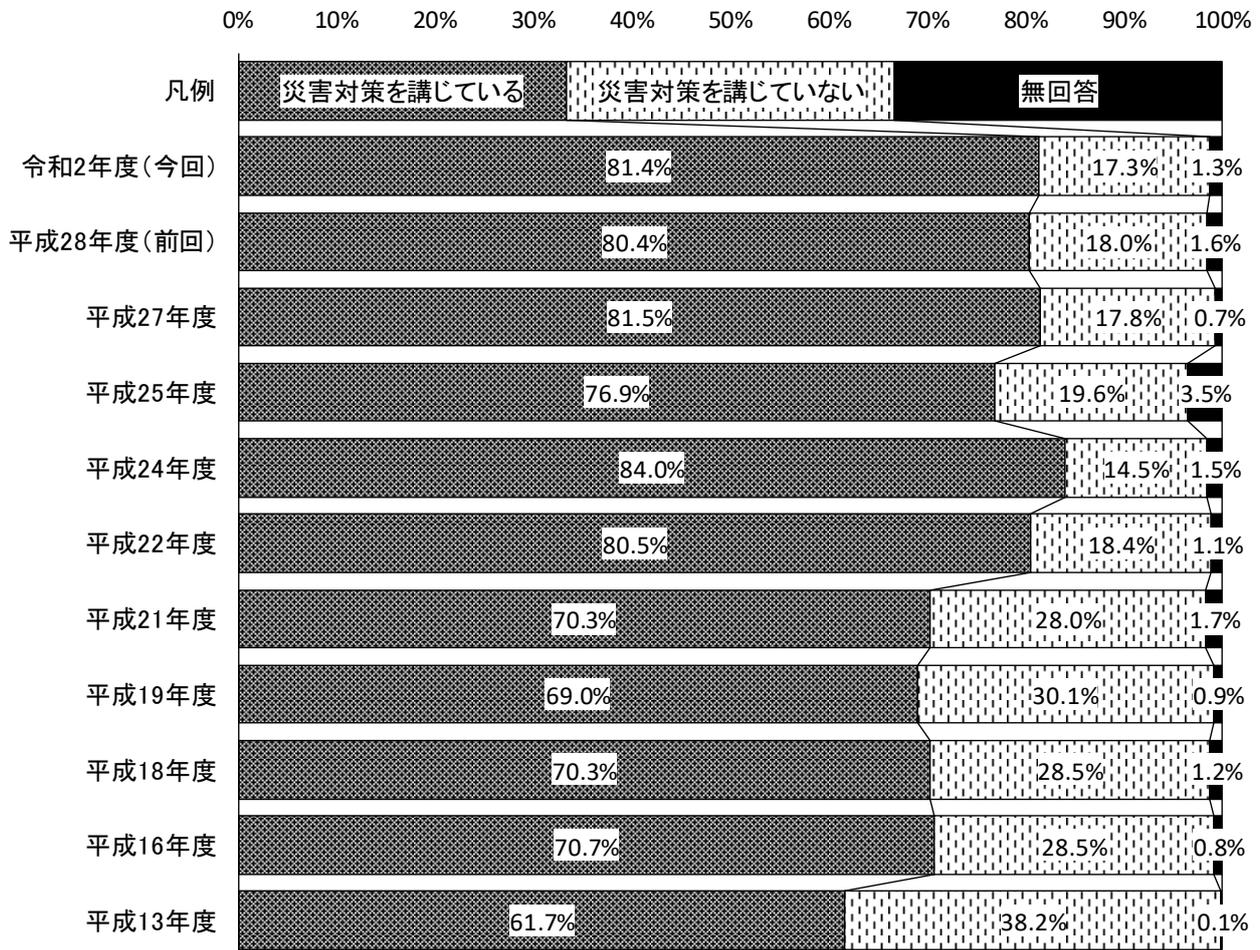
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
災害対策を講じて いる	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.3%	80.5%	84.0%	76.9%	81.5%	80.4%	81.4%

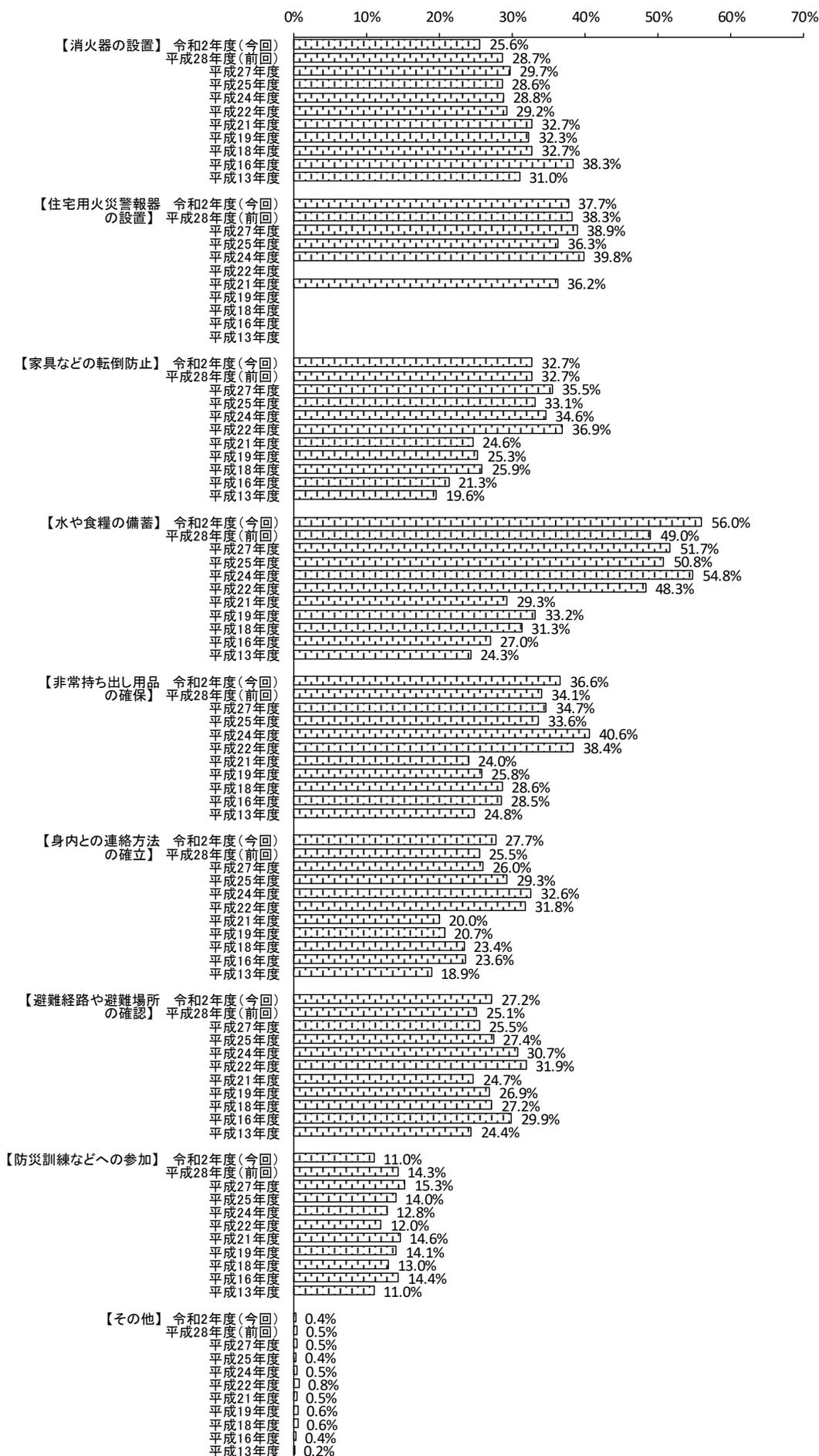
#### (4) 指標の分析

##### ☆災害対策を講じている人は約8割となっています

災害に対して何らかの対策を「講じている」(81.4%)と答えた方は約8割となっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。

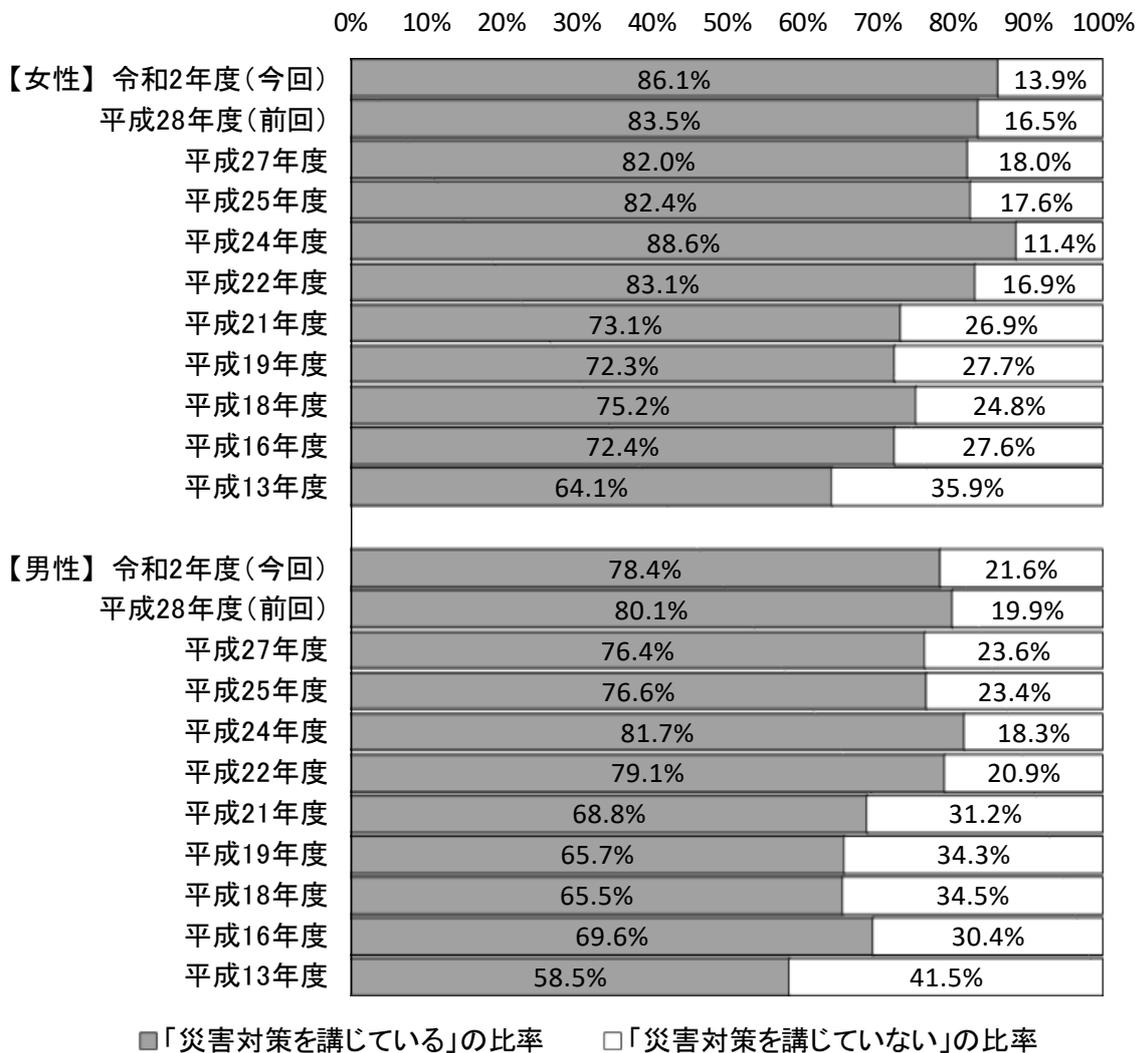


災害対策の具体的な内容は、「水や食糧の備蓄」(56.0%)が最も高く、次いで「住宅用火災警報器の設置」(37.7%)、「非常持ち出し用品の確保」(36.6%)となっています。また、「水や食糧の備蓄」は平成28年度調査と比べて7.0ポイント増加しています。



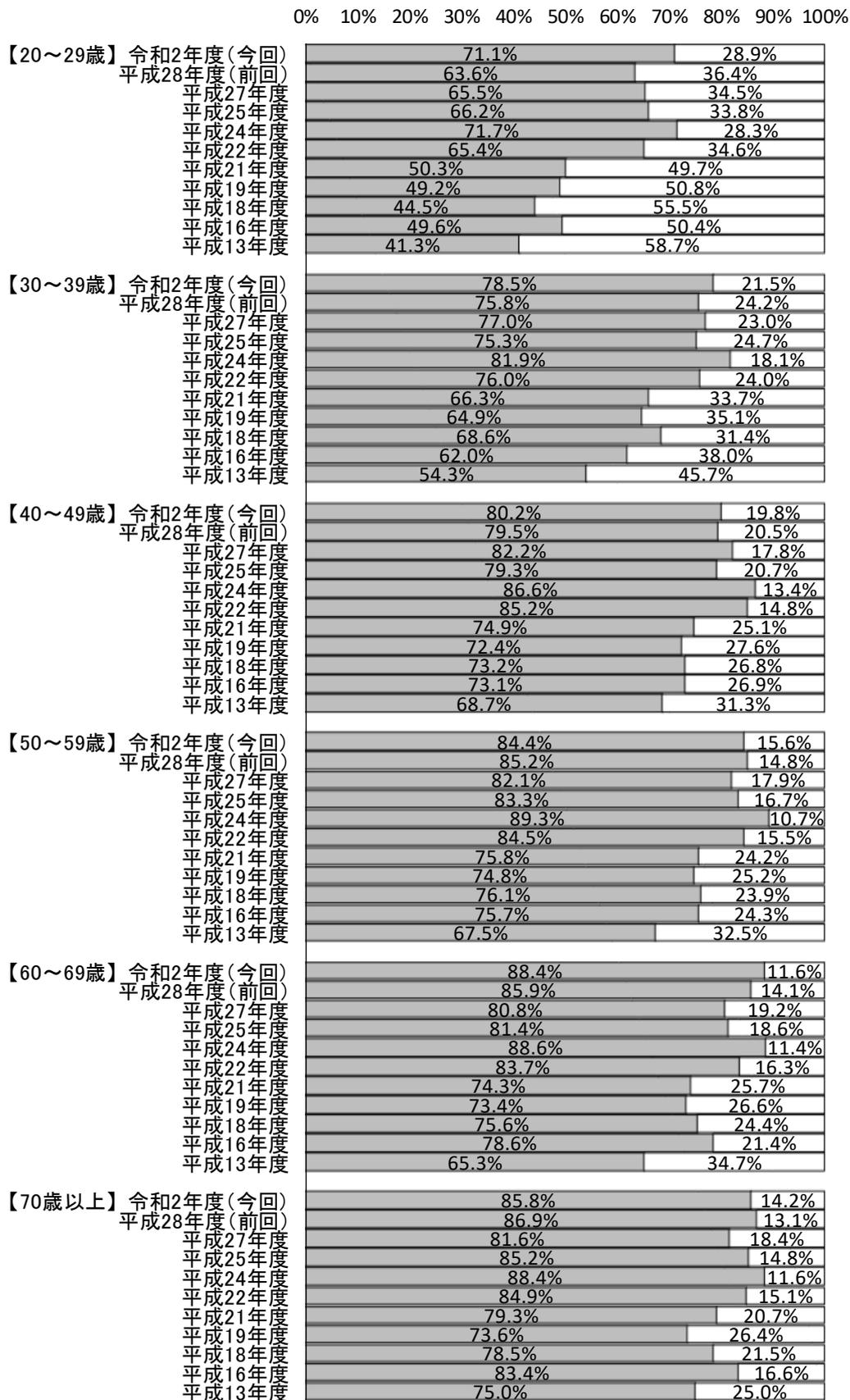
<災害対策×性別>

性別で見ると、「災害対策を講じている」は“女性”（86.1%）が“男性”（78.4%）より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



<災害対策×年齢別>

年齢別で見ると、「災害対策を講じている」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高くなっており、“60～69歳”（88.4%）、“70歳以上”（85.8%）で高くなっています。また、「災害対策を講じている」は平成28年度調査と比べて“20～29歳”で7.5ポイント増加しています。



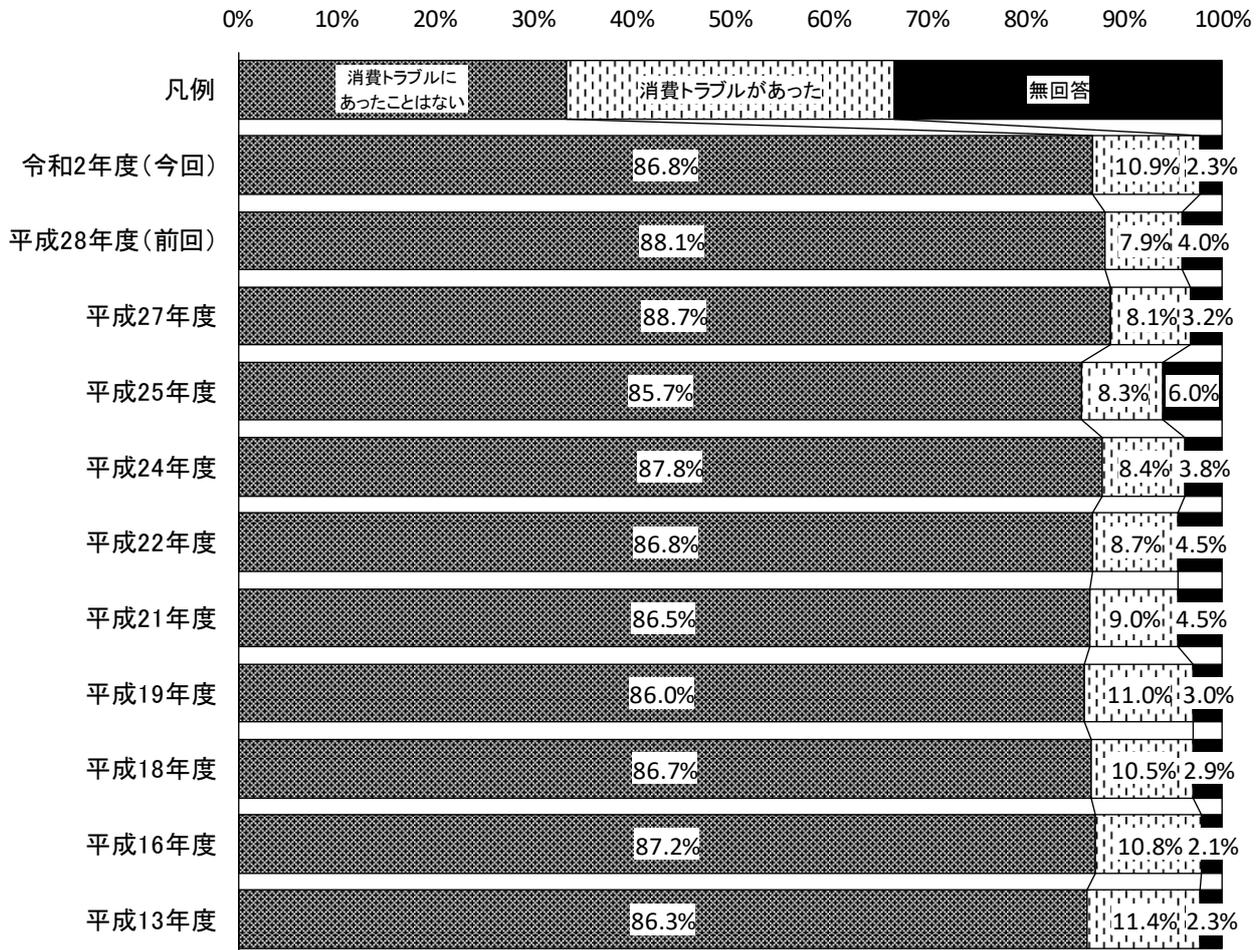
■「災害対策を講じている」の比率    □「災害対策を講じていない」の比率



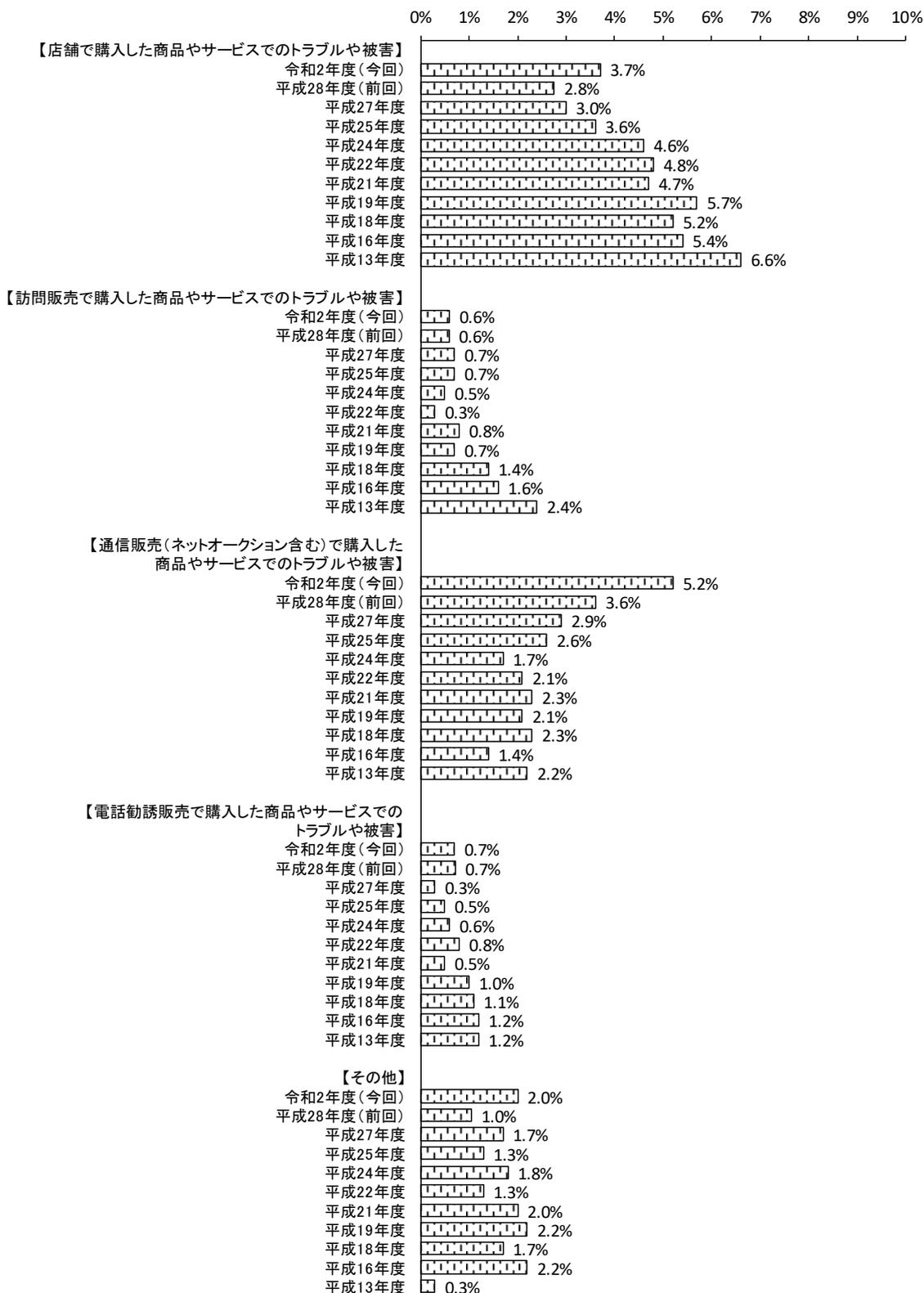
#### (4) 指標の分析

##### ☆消費者トラブルに巻き込まれた人は約1割となっています

この1年間に何らかの「消費トラブルがあった」(10.9%)と答えた方は約1割となっており、平成28年度調査と比べて3.0ポイント増加しています。

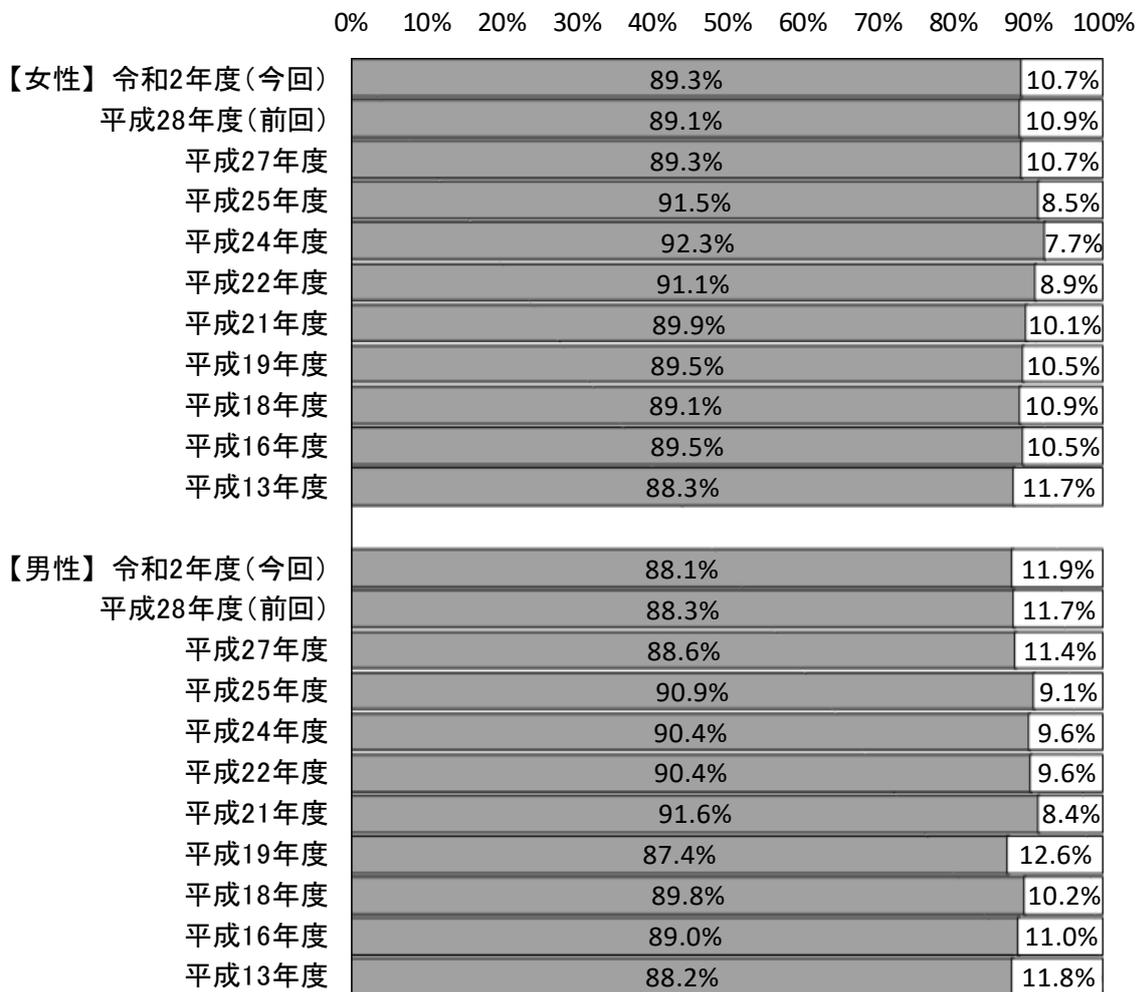


消費者トラブルの具体的な内容は、「通信販売（ネットオークション含む）で購入した商品やサービスでのトラブルや被害」（5.2%）が最も高く、次いで「店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害」（3.7%）となっており、「通信販売（ネットオークション含む）で購入した商品やサービスでのトラブルや被害」は平成24年度調査以降増加傾向を示しています。



## <消費トラブル×性別>

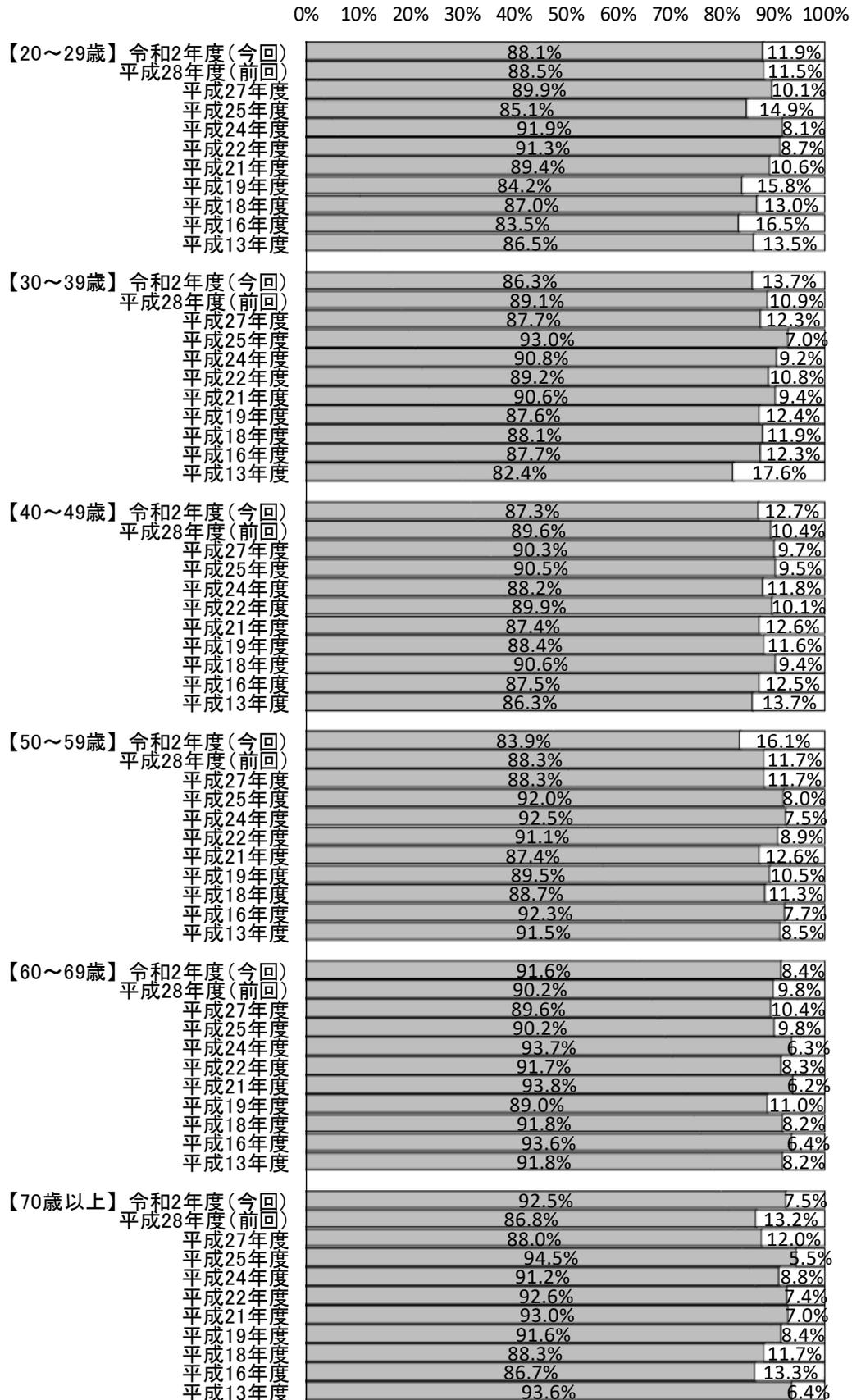
性別で見ると、「消費トラブルがあった」は“男性”（11.9%）が“女性”（10.7%）より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



■「消費トラブルにあったことはない」の比率    □「消費トラブルがあった」の比率

<消費トラブル×年齢別>

年齢別で見ると、「消費トラブルがあった」は“50～59歳”（16.1%）で最も高く、次いで“30～39歳”（13.7%）となっています。また、「消費トラブルがあった」は平成28年度調査と比べて、“50～59歳”で4.4ポイント増加し、“70歳以上”で5.7ポイント減少しています。



■「消費トラブルにあったことはない」の比率 □「消費トラブルがあった」の比率

## 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第6項 緑と花に親しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力による協働を推進します。そして、人と自然を大切にする思いやりの心もち、豊かで潤いのある生活ができるまちを実現します。

《指標》

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

#### (1) 指標の説明

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度（評価）」

Q18（ケ） あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～チの各項目に、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

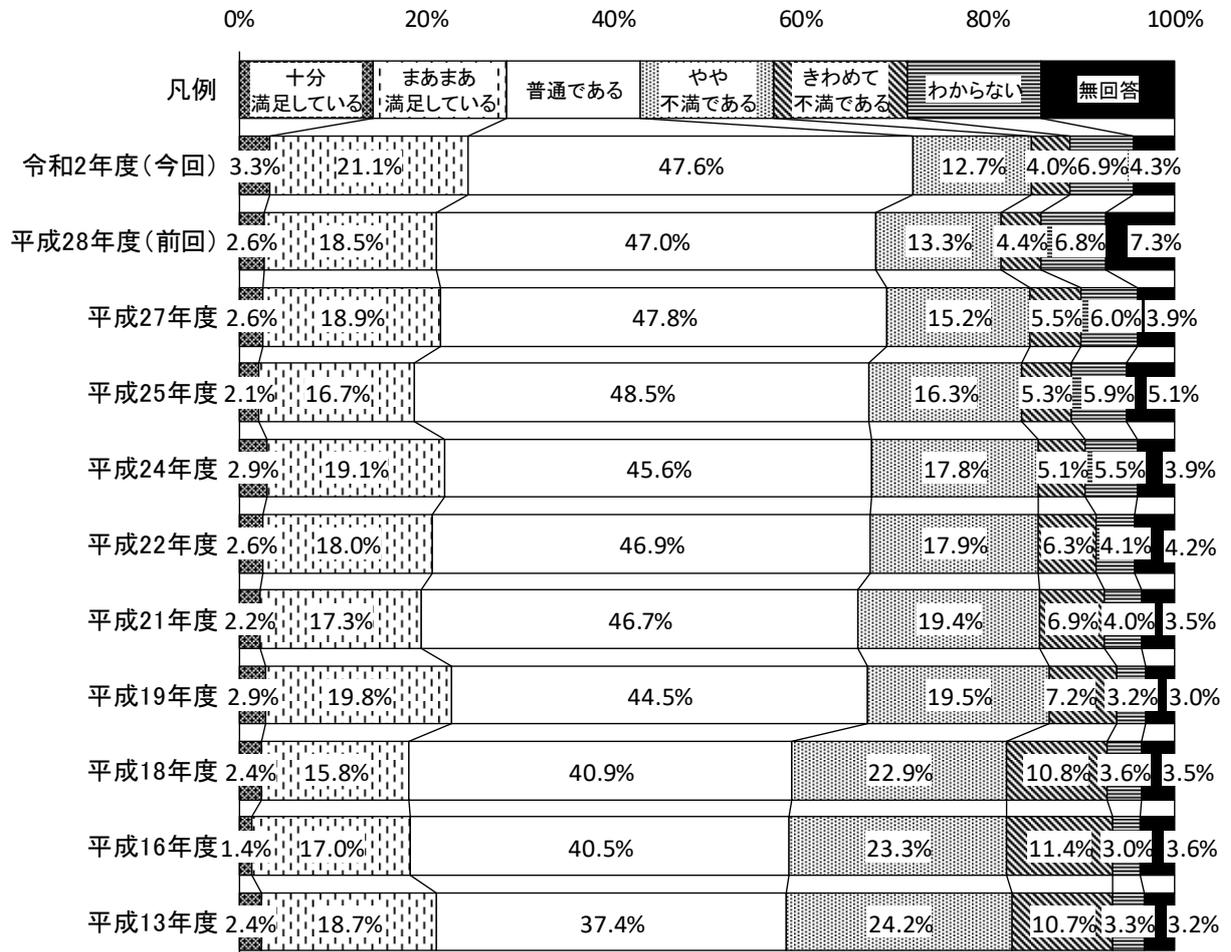
#### (3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度	令和2年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%	2.1%	2.6%	2.6%	3.3%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%	16.7%	18.9%	18.5%	21.1%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%	18.8%	21.5%	21.1%	24.4%

#### (4) 指標の分析

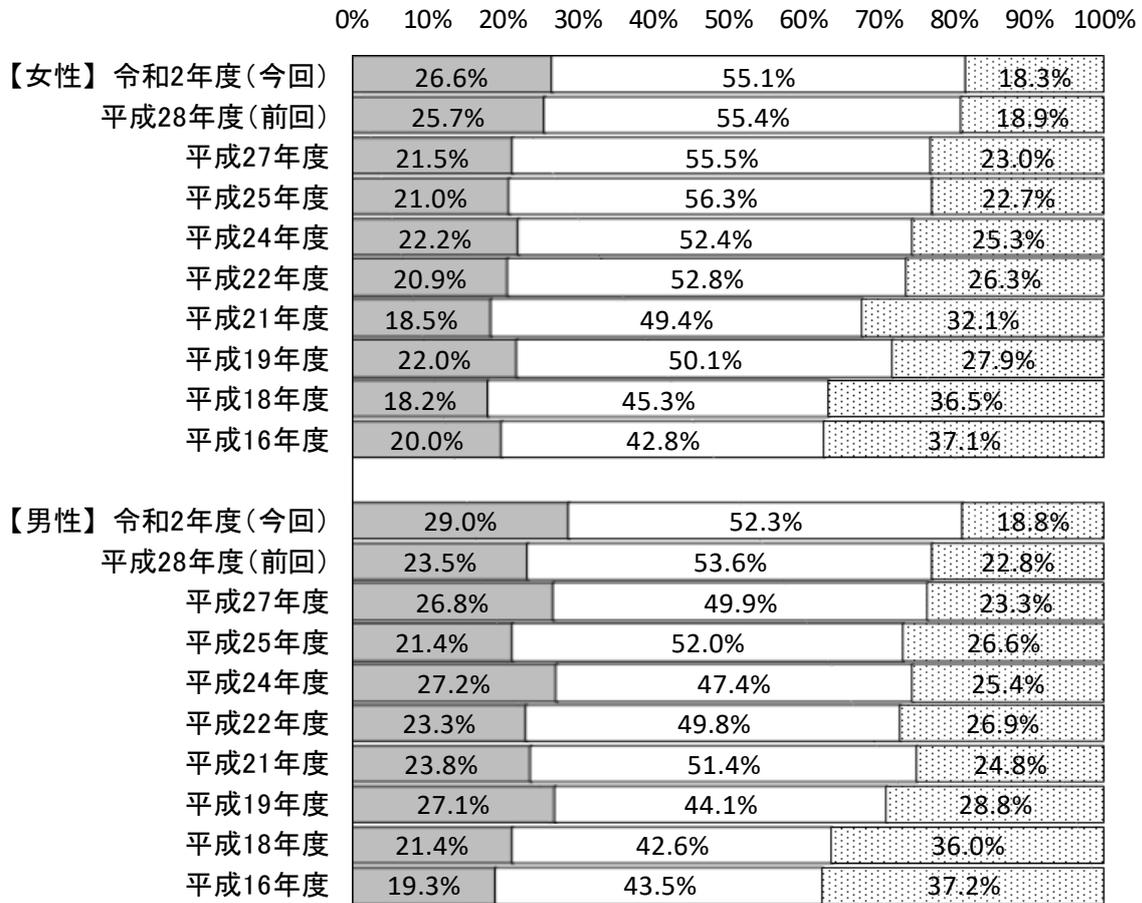
##### ☆自然環境に満足している人は2割半ばとなっています

緑地・河川などの自然環境に、「十分満足している」、「まあまあ満足している」を合わせた『満足している』(24.4%)と答えた方は2割程度ですが、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。



<自然環境×性別>

性別で見ると、『満足している』は“男性”（29.0%）が“女性”（26.6%）より高くなっており、平成28年度調査と比べて男性では5.5ポイント増加しています。

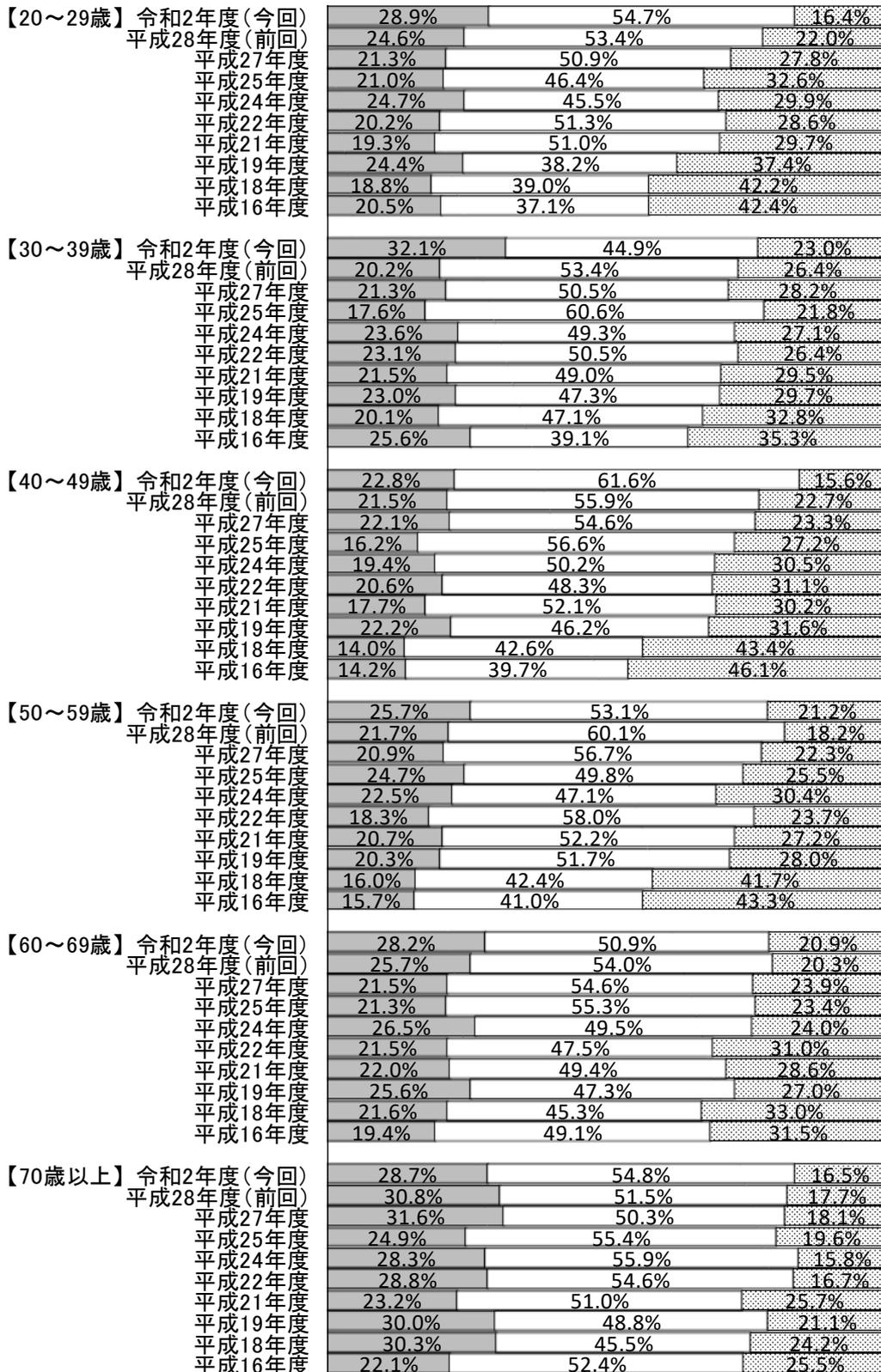


- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

<自然環境×年齢別>

年齢別で見ると、『満足している』は“30～39歳”（32.1%）で最も高く、次いで“20～29歳”（28.9%）となっています。また、“70歳以上”を除く全ての年代で『満足している』は平成28年度調査と比べて増加しています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

《指標》

身近で緑が守られ、増えていると感じる人の割合

(1) 指標の説明

暮らしの中に緑があり、心豊かな生活を実現するため、身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度（評価）」

Q10 あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 守られ、増えていると感じている
- 2 守られていると感じているが、増えているとは感じていない
- 3 守られていないと感じている

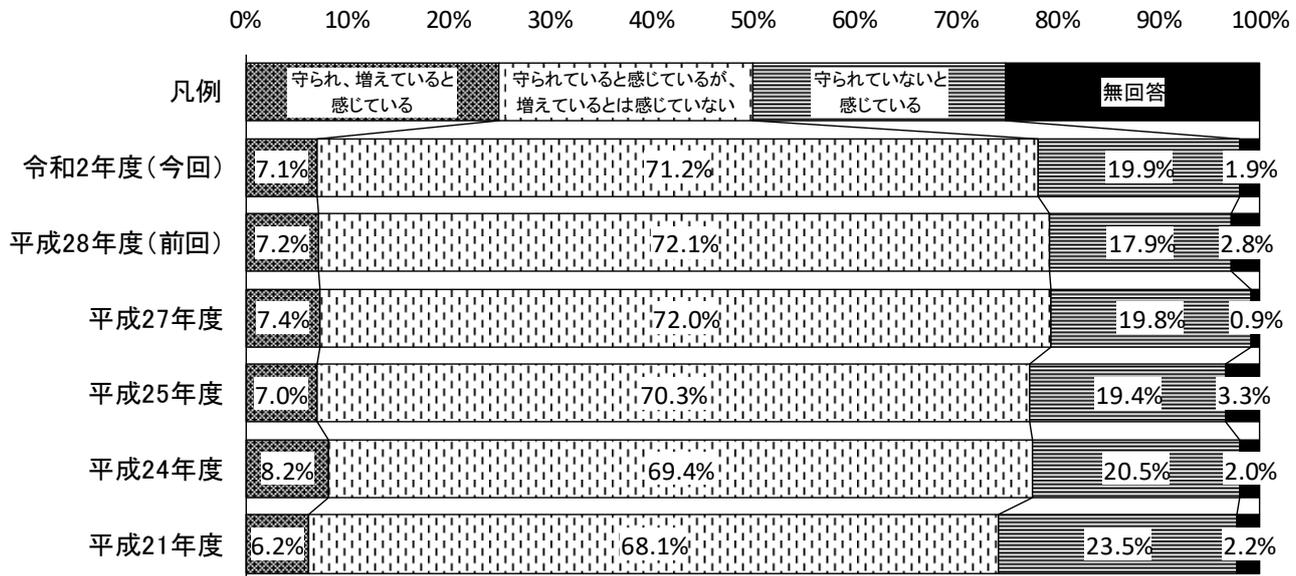
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
守られ、増えていると感じている	6.2%	8.2%	7.0%	7.4%	7.2%	7.1%

(4) 指標の分析

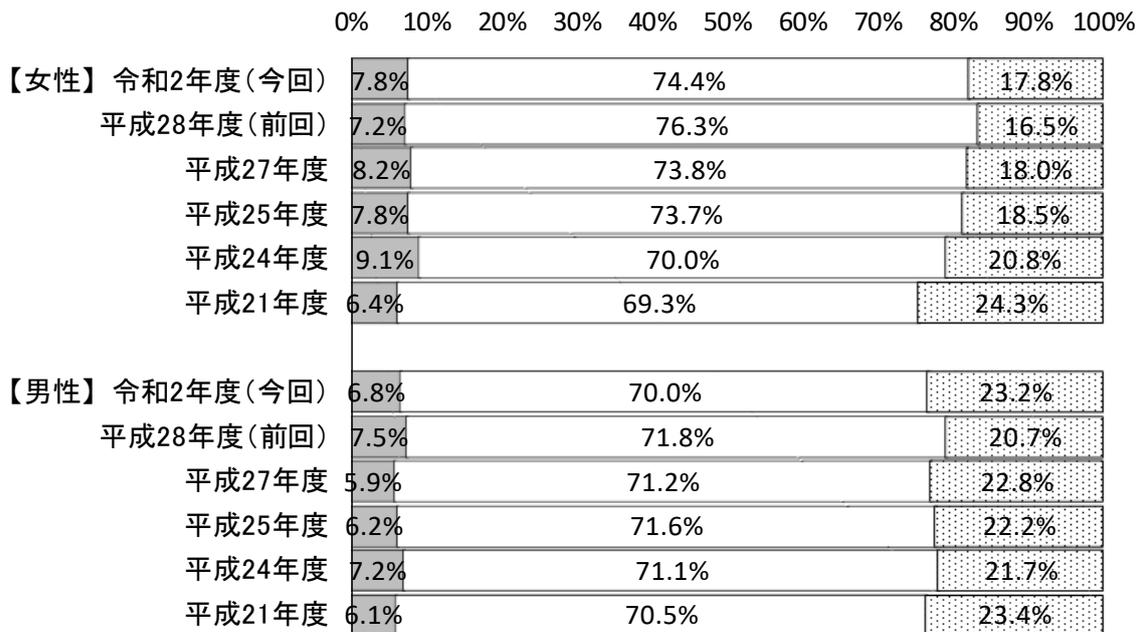
☆身近で緑が守られ、増えていると感じている人は1割未満となっています

身近で緑が「守られ、増えていると感じている」(7.1%)と答えた方は1割未満となっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。一方、「守られていないと感じている」(19.9%)と答えた方は約2割となっています。



<街路樹や緑地が守られ増えている×性別>

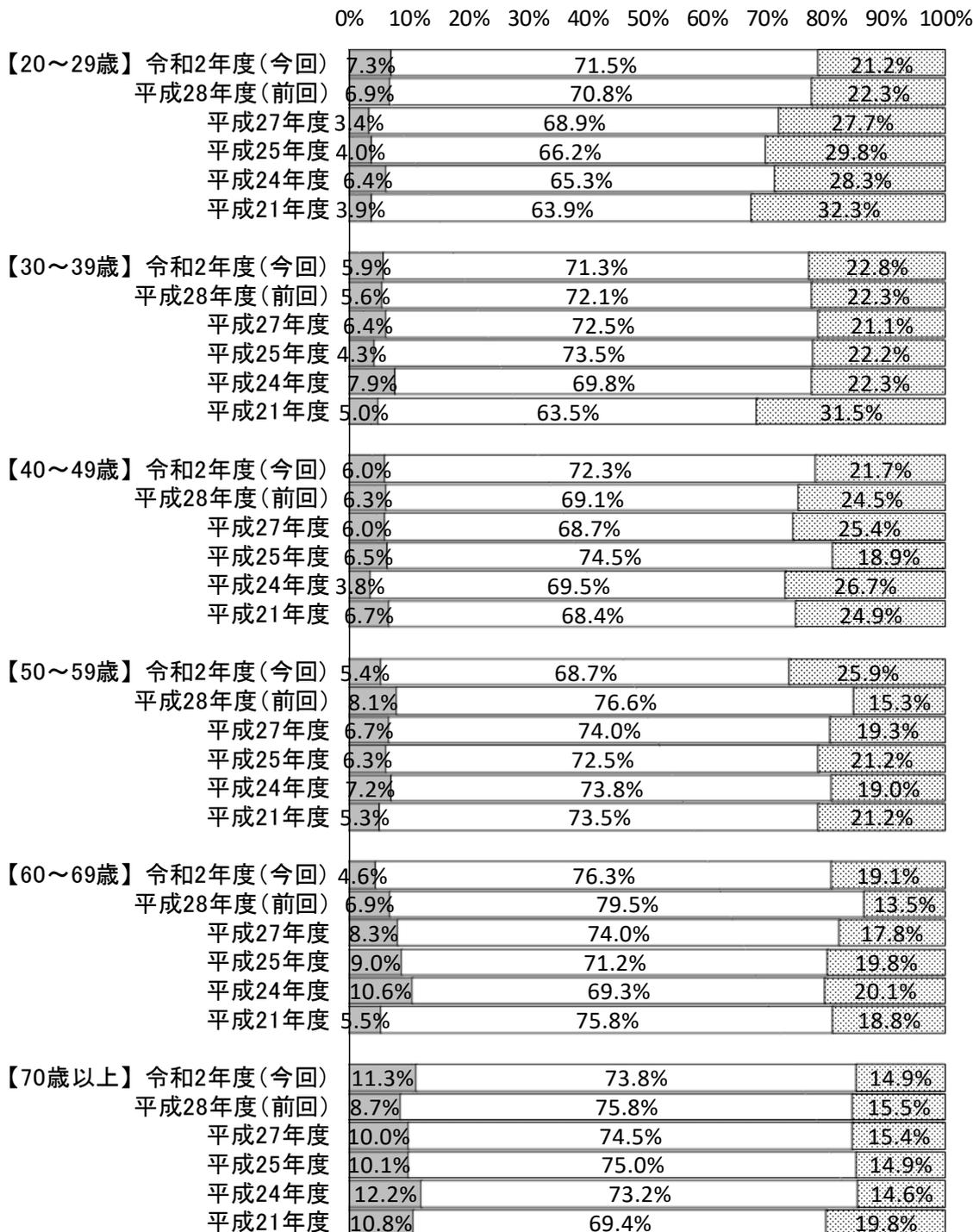
性別でみると、「守られ、増えていると感じている」は「女性」(7.8%)が「男性」(6.8%)より高くなっています。



- 「守られ、増えていると感じている」の比率
- 「守られていると感じているが、増えているとは感じていない」の比率
- ▨「守られていないと感じている」の比率

<街路樹や緑地が守られ増えている×年齢別>

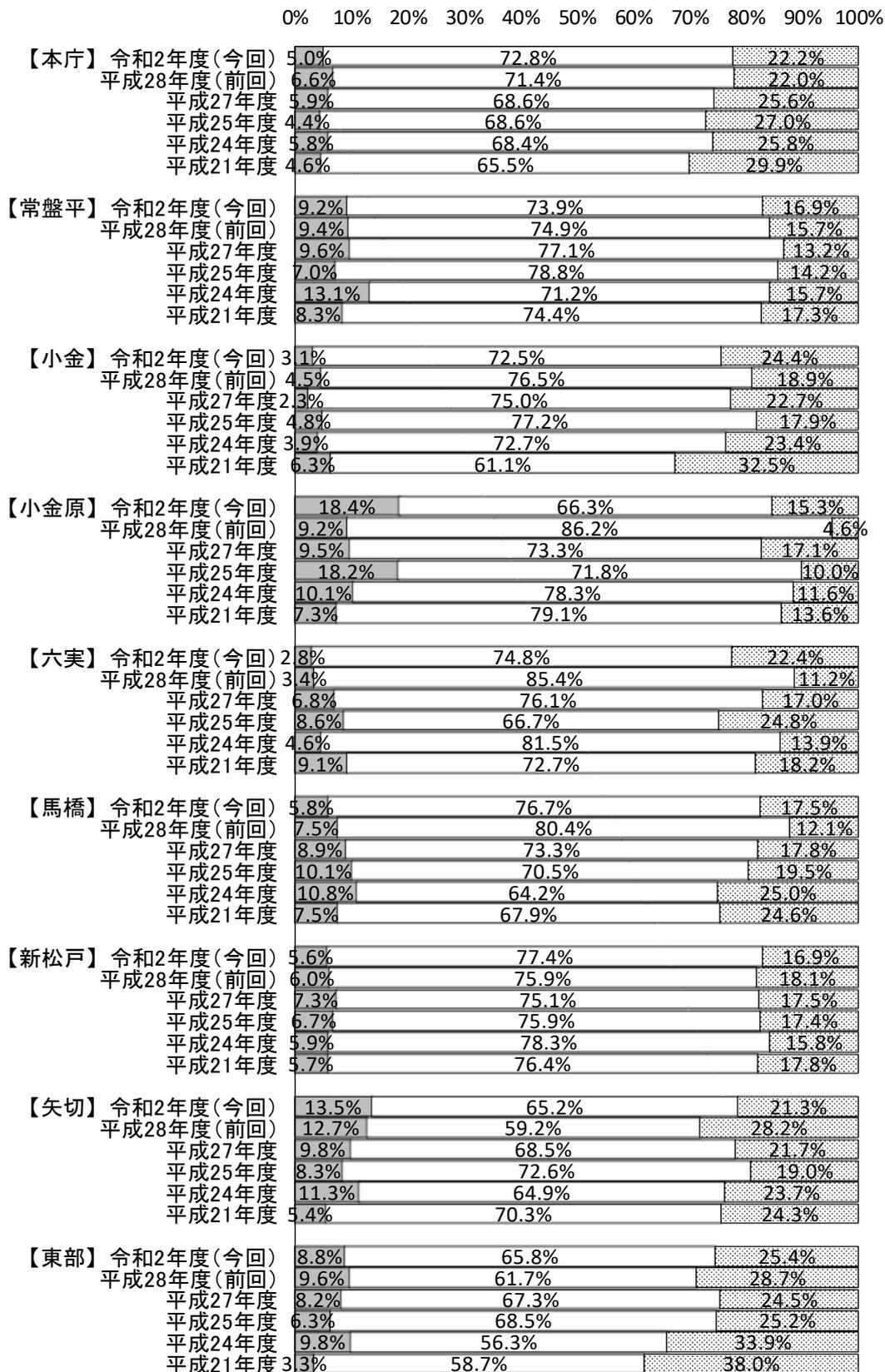
年齢別でみると、「守られ、増えていると感じている」は“70歳以上”（11.3%）で最も高く、次いで“20～29歳”（7.3%）となっています。また、「守られていると感じているが、増えているとは感じていない」を合わせた『守られていると感じている』は“70歳以上”（85.1%）で最も高くなっています。



- 「守られ、増えていると感じている」の比率
- 「守られていると感じているが、増えているとは感じていない」の比率
- ▣「守られていないと感じている」の比率

<街路樹や緑地が守られ増えている×居住地区別>

居住地区別でみると、「守られ、増えていると感じている」は“小金原”（18.4%）で最も高く、次いで“矢切”（13.5%）となっており、平成28年度調査と比べて“小金原”で9.2ポイント増加しています。



- 「守られ、増えていると感じている」の比率
- 「守られていると感じているが、増えているとは感じていない」の比率
- ▨「守られていないと感じている」の比率